

育兒の經驗

某夫人

子供の姿勢に注意する事
 姿勢と身体の健康と關係の大きい事は誰も知らぬものは無い。故に學校などではしきりに其の矯正に腐心して居りますが、家庭に於て此處に意を用ひて居られる主婦が割合少くあるまいかと憂へます。巍然として雲をつくが如き老松も其始めはふめば折れなん二葉の優にやさしかりしもの布衣より身を起して帝位に上りしナポレオンでも、北米のワシントンでも皆始めは母の懷に抱かれて其の乳をさぐりしもの。大木たり豪傑として万人に仰がるゝに至りし其の初めは之を養育する人の保育の仕方が其の當を得たる爲ではありますまいか。殊に其の呱呱の聲を上ぐるの時が最も大切な根を作るべき時ではありますまいか。此時に幼児の心身の發達に意を用ふる事を怠りて、將來不治の不具者となす事は世間其例少くありますまい。わけ

て姿勢の如きは學校より寧ろ家庭が注意を拂ふべきものではありますまいか、登校する頃の子供の身体は已に大方さまりのつきかけし頃なほすとも中に六ヶしい。其の以前が最も多大の注意を要する。して見れば子供の姿勢は母の尤も留意して其の兒將來の發展を圖るべき事柄であると信じます。
 世の男子より殊に女子に多いのは脊骨の屈曲であります。少し年頃の娘などによくこの屈曲せし者が多い様であり。前年私がある學校で、高等四年の女生徒を二回許り受持ちました時殆んど屈曲しない生徒はない位で、いろいろやかましく申しました事が御座いました。之れは天性にもよるかも知れませぬが、多くは家庭に於て子女教育の大任を負へるものが、教育の思想の缺乏と注意の不足とに原因することが多いと思ひます。又一つには稻の例の如く、よく熟したる謂はゆる氣の練れた人は腰が低いとか申しますのを、極度に應用した反動ではなからうかと思はれます。即ち熟達した人はよく謙遜に人をそらさぬ腰も低い、

辭儀もよく出来る。禮儀のみに止らず一寸人に物言ふ時も腰を少し屈する脊を屈するといふ風で一寸逢つても腰を低めると言ふのが慣はしとなつて自然に女などは深い意味も何も知らないで、只矢鱈に身体を前方に屈するといふ風になつたのであるまいか。私共の狭い経験で申しますと、學校などに出て居る人と一家に退隱して専念家政を司る主婦とを比較するに、前者の姿勢が遙によろしい。これは種々の原因にもよませうが、即ち日本家の構造から仕事をする時の如き殊に裁縫などは、大に關係するであらうと思はれますが、一つは常に家にあつて腰を低く腰を低くする害ではなからうかと思はれます。一寸おばさん赤様をオ、お可愛ひと取り上る其娘の胸をそらして起立した姿勢よりも少し前方に屈した方が何となく女らしい、奥床しひ、優さしいと言ふ一種の感情より自然と何事も此筆法で行く故でありますまいか。さすれば實に大きな問題で社會改良とか何にか云ふ方面の事になるかも知れませぬが、私はどうでも改良しなればならない事ではないかし

らと思ふのであります。右の如き家庭に育つ子の姿勢の稍悪きは理の當然と存せられますが、どうかして其を矯正したいものだとは常々思ふて居りまして、私の家でも最も注意いたして居ります。最初長男の八歳になるのは天性薄弱で胸部が非常に落込んだ様な窪みのある胸廓の狭い子で御座いました。ソコデ醫者の注意もありましたし衣服の紐に氣をつけ少しお可笑くつても帯を下の方にゆめさて胸部を壓迫しないように、すべてに氣をつけました。今日ではモウ大抵普通の身体になりましたが、どうかすると讀書する時機の方に屈する、食卓に倚りかゝるといふ風があります。ソコデ私は常にソレ姿勢ヤレ姿勢と見付かり次第申しやすが大分自分でも氣をつけるようになりました。それからさらやかましく言ふばかりでもいけなないと存じましてお湯の時などを利用して生理の話をきかせる。之れが大きに效があつたかしらと思はれます。かつて入浴中彼は胸をはつてアバラ骨がゴツゴツ出て居るのを指さして母さんこれは何と質問しました。コ、ゾ待

受けたりで「これがねソレお前がチヨイチヨイ聞
く顔の色の青白い。やせた肺病の人があるだらう
アノ肺病といふのは此處を病んで居るのである
と言ひ聞かせると彼はソーカと引込んで居ぬ、
肺病になれば死ぬかと聞く「ア、死にますとも
ソレは實に苦しいやな病氣だよ、ドーして其の
病氣になるかと聞く「ア、ソレ平素姿勢に氣をつ
けなさいとは、コ、の事だよネ、此胸に骨がある
でせう其處には肺といふ大事な大事な道具がある
平素身体を前方に屈すると其の肺を壓へつける肺
を壓へつけると肺が充分に働かぬ。其の働を充分
にする事が出来ない肺が弱くなる。肺が弱くな
れば身体が弱くなる。身体が弱くなれば肺病にも
胃病にもかゝり易くなる。ダカラフダン姿勢に氣
をおつけなさい。氣をおつけなさいと言ふのです
ネ分つたかと、かういふ風に仕向けて常に來るべ
き好材料を捕へては姿勢に氣をつけて居ます。
又チヨイチヨイ老人の脊の屈曲せる人を見る時に
子供はすぐあれはどうしたのと聞く「ア、あれも
少々な時から身体を前方に屈し姿勢に氣をつけな

かつた故なのと言ひ聞かせ。又濫呼吸などやらせ
て成丈胸部を張る練習をいたさせて居ります。
私共のよーに大勢の子供ですと長男にソレ姿勢と
申しますと他のなみ居る子供は皆一時に胸をウン
と張つて自満氣な顔をして居ます、それかわらぬ
か他の小供は皆姿勢がよいよう御座います。
又女子の姿勢の一般にわるいのは、前中し述べま
したような事もありませうし、又裁縫などするの
が大變影響はしまいかと思はれます此等は子女
教育の任に當る人の最も研究を要する事柄かと思
はます。

病状を知らざる利益

米國費府の醫學雜誌は曰く醫學上の智識近來一般に發達した
るより醫師は患者に對して病状を包まず語ると多くなりたる
も患者が自己の病状及び其療法を知るは大抵の場合に於て有
害にして歐米の醫師が今尙處方箋に雜典語を用ふる重なる理
由は患者をして成る可く藥の種類を知らしめざるを可とする
が爲にして例へ患者は多少の智識を有するも醫師の望むが如
く充分なる療法を知れる者に非ず寧ろ飽まで醫師に信頼する
を患者の爲には有益なりとす